

2024年4月24日（水）

老球の細道792号

孫たちのミニバスケットボールデビュー

会津バスケットボール協会 室井 富仁

9年前孫娘が生まれた時に福島中央テレビの『希望』という番組に出演する機会があった。どういうわけか主役の孫よりも爺様の私の方が出演時間が長くなり、その際恥ずかしげもなく「孫がバスケットボールで日本代表選手になるのが夢だ」などと公言してしまった。後で、多くの人からテレビ見ていたことを告げられ赤面の至りであった。その孫たちがとうとうミニバスケットボールデビューを果たした。爺の最後の夢物語である。

郡山に住む孫たちは昨年からすでにチームに所属し練習に励んでいる。駐車場にバスケットのゴールを設置し本格的に取り組んでいるようである。私も何か協力できるのではないかとでしゃばり、「家の中でできるドリブルハンドリング」と称して最近持ったばかりのスマホで映像を送ってやった。我ながら良くできていると自画自賛していたが、孫からは「もっと難しいのをお願い!」と言われた。「華麗なるハンドリング」は所詮「加齢なるハンドリング」で「加齢トンプソン」「ステファン加齢」「加齢アービング」だった。

先月孫たちのチームが「猪苗代カメリーナ体育館」に来て会津地区のチームと練習試合を行った。ちょうど「今日行く」と「今日用」がなかったので鬼婆と一緒に見学に出かけた。初めて見る孫のバスケットボール姿に感動し、ゲームの中では孫の姿しか目に入らず、その一挙一動に反応し、鬼婆に私の現役時代のプレイとを比較しながら自画自賛して楽しんだ。

郡山の孫たちのミニバスケットに刺激を受けた内孫たちも先々週遂にチームに加入した。小学2年と4年であるが、まだスタートしたばかりで3回くらいしか練習には参加していない。練習はとても楽しいようで、最近は夕食の話題がバスケットボールで持ちきりになった。と同時に私のボールハンドリングスキルなどで孫たちに存在感を示せるようになり、ちびまる子の友蔵爺さんに負けないくらい孫たちに好かれたと思う。

孫たちがバスケットボールを最後まで続けられるか途中でリタイアするか神のみぞ知る。私としては息子たちの時にできなかった練習の送迎やお手伝いを積極的にやりたいと思っている。その時に注意することはただ一つ「余計な口出しはしない」ことである。バスケットボールをとことん好きになるよう縁の下の力持ちに徹することである。

ミニバスケットボール時代の指導と環境が、その子どもの将来のバスケットボールにおける成功の基礎を作る。しかし昨今のミニバス環境は多くの問題を含む。チーム内や指導者の問題に関わるチーム移籍が強化のために悪用されたり、保護者からのクレーム、指導者の暴言、暴力、前近代的練習方法等がある。爺様として問題解決にどれだけ関わられるのか？

孫たちはいずれも自分の学区外のチームに所属している。チームメートが皆他の学校の児童ばかりで、人見知りしないかと不安であったが今のところ平気である。放課後近所や同学校の子供達と遊ぶことが少なくなった現在、他学校の子供達とバスケットを通じてコミュニケーションを図れるようになることは人間力向上に必ずやプラスになるだろう。